

一級自動車工学科・自動車整備科			2026年度 授業計画			
時期	1年B巡	単元	学科	教科名	シャシ構造B	
科目	自動車工学	教科書等 持参品	三級自動車整備士（総合）		発行日	2025.4.1
総時限	12時限				教科 担当	内川 智輝
総時間	19.2時間					
単位数	1					
1. 実務経験のある教員による授業科目 該当						
自動車整備士として、シャシ整備の実務経験がある教員によりシャシの構造、作動について指導する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）						
<ul style="list-style-type: none"> ①サスペンションを理解する。 ②ステアリング装置を理解する。 ③ホイール及びタイヤを理解する。 						
3. 授業の到達目標（何を理解し何が出来るようになるのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ①サスペンションのショックアブソーバ、スタビライザの構造・機能を理解出来る。 ②車軸懸架式サスペンション、独立懸架式サスペンションの構造・機能を理解出来る。 ③ステアリング装置の構造・機能を理解出来る。 ④ホイール及びタイヤの構造・機能を理解出来る。 ⑤ホイール及びタイヤの整備を理解出来る。 						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）						
<ul style="list-style-type: none"> ・学科履修試験で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 ○×、選択肢、記述により100点満点で評価する ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良（一級工学科70点以上） 60点未満：不可（一級工学科70点未満） ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。（一級工学科70点以上） 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。 						
5. 準備学習						
シャシ構造Aのサスペンション分野の続きとなるため、サスペンションのスプリングについて復習しておく。						
6. 学修時間と単位						
<p>本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。</p> <p>1単位の修得に必要な学修時間の目安は、15～30時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）30～15時間である。</p>						

時期	1年B巡	単元	学科	教科名	シャシ構造B	
7. 業概要 (時限ごとの主な授業内容)					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	アクスル及びサスペンション	構造・機能_ショック・アブソーバ、スタビライザ			三級自動車整備士(総合)	各自
2	アクスル及びサスペンション	構造・機能_車軸懸架式サスペンション、独立懸架式サスペンション				
3	ステアリング装置	構造・機能_車軸懸架式サスペンション 概要_自動車回転する原理				
4	ステアリング装置	構造・機能_ステアリング操作機構、ステアリング・ギヤ機構、ステアリング・リンク機構				
5	ステアリング装置	構造・機能_油圧パワー・ステアリング				
6	ステアリング装置	構造・機能_電動パワー・ステアリング				
7	ホイール及びタイヤ	概要 構造・機能_ホイール				
8	ホイール及びタイヤ	構造・機能_タイヤの構成				
9	ホイール及びタイヤ	構造・機能_タイヤの種類、タイヤの呼称、タイヤに起こる異常現象				
10	ホイール及びタイヤ	構造・機能_ホイールバランス				
11	ホイール及びタイヤ	整備_点検・修正、タイヤ脱着、車両への取り付け、パンク修理				
12	習熟確認問題	期末試験前の習熟確認				